

5. 工事中

(1) 工事中の交通への影響

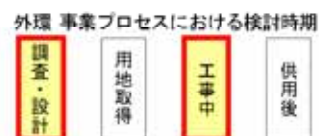
- ① 工事車両が走行することによる生活道路の渋滞、周辺地域への影響についての懸念
- ② 三日月地域の生活道路や吉祥寺通りなどの工事期間中の交通機能の確保についての懸念
- ③ 生活道路に工事車両が流入することへの懸念
- ④ 工事車両専用ランプ設置への期待

○これまでに頂いた意見

- 中央道に工事用インターを作り工事車両は地域を通らない。
- 工事期間からスクールバスを準備する。
- 開削工事を行う場所では、掘り出した土砂を、いったん外に出し、再度埋め戻すことになる。その土砂を移動する過程を計画地内でやりくりするために、工期を区分し、土砂を運搬する車両が工事現場から出入りしないようにすることが重要である。
- 工事中においても、三日月地域が孤立しないように、環境施設帯予定地を横断して生活道路を確保し、同時に生活道路に工事車両が流入しないような工事計画を立案してほしい。
- 工事車両が通行する場合の一般道の安全性や生活環境への影響に対応するため、外環整備を行う前に関係する三鷹都市計画道路 3・4・3 号線、3・4・11 号線等を整備する。

(国)

- 中央ジャンクションに係る工事用車両については、中央高速に直接乗り入れできるようにし、吉祥寺通りなどの地域の一般道を極力利用しない計画とします。また、一般道を利用する場合には、工事用車両の台数、運行ルート、運行時間等について地域のみなさまへ説明するとともに、意見を聴きながら周辺地域への影響が小さくなるよう努めます。
- 工事中に分断が生じる道路については、切り回し道路の設置等により必要な機能を工事前までに確保します。また、切り回し等の対策の具体化にあたっては、地域のみなさまの意見を聴きながら対応します。



(2) 工事中の環境への影響

① 工事に伴う大気質、騒音・振動、粉塵等による環境への影響についての懸念
 ② 工事に伴う土地の隆起や地盤沈下についての懸念、現状維持への期待
 ③ 工事に伴う日照・通風の影響についての懸念
 ④ 仙川横断部の施工方法についての懸念

○これまでに頂いた意見

- 夜間工事をさける。
- 近所に舗装が傷んでいる道路があり、大型車が通ると家が揺れてしまう。工事車両が通るとなると、頻りに振動するのではないかと心配である。工事前に、道路の舗装を直してほしい。
- 工事中の騒音や振動、砂埃が心配である。相生町で採用されたドームカバーの設置など検討してほしい。
- 工事用の壁が目の前に立った場合、どれくらい圧迫感があるのか心配である。壁の設置期間などの工事の詳細を早く教えてほしい。
- 河川法で仙川には杭を打てないとのことだが、遊歩道部分なら管理者が了承すれば可能だと聞いた。工事期間中は遊歩道に杭を打ってビームを架け、工事車両用の道路にすれば、仙川沿の道路を通行するより周辺の家屋への騒音・振動の影響が少ないのではないかと。
- 外環の工事を行うときに土砂などの搬出をどのようにするのか計画を教えてください。

(国)

- 環境への影響については、環境影響評価法に基づき、事業特性や地域特性を勘案のうえ、環境影響評価を適切に実施し、工事の実施における建設機械の稼働及び工事用車両の走行に係る大気質(二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉塵等)、騒音、振動について予測・評価した結果、整合を図るべき基準等を達成すると考えています。
- 工事の実施にあたっては、環境保全措置として、工事施工ヤードの仮囲いの実施、排出ガス対策型・低騒音型・低振動型の建設機械を使用することなどにより、さらに環境負荷の低減を図ります。
- 工事中の地下水位については、施工方法や工事内容に応じたモニタリング方法について関係機関等との協議を十分に行い、周辺の地下水利用状況も考慮した上で実施し、結果について公表します。
- なお、工事の実施にあたっては、各関係機関と協議を行い、周辺地域への環境影響を極力抑えた工事計画とするとともに、地域の住民のみならず、工事の内容、方法、期間などについて周知を徹底します。
- 仙川横断部の施行方法については、設計段階で詳細な検討を行い、仙川の河川機能を確保し、水の流れに影響を与えないよう努めます。

外環 事業プロセスにおける検討時期

調査・設計	用地取得	工事中	供用後
-------	------	-----	-----

外環 事業プロセスにおける検討時期

調査・設計	用地取得	工事中	供用後
-------	------	-----	-----

外環 事業プロセスにおける検討時期

調査・設計	用地取得	工事中	供用後
-------	------	-----	-----

参考: 工事中の環境への影響について

工事中に実施する主な環境保全措置

工事に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等、騒音、振動、地下水などへの影響保全措置を実施します。

また、工事実施に伴う作業計画の作成にあたっては、各関係機関と協議を行い、周辺地域への環境影響を極力抑えた計画とします。

工事中に実施する主な環境保全措置は以下のとおりです。

環境保全措置の内容	環境保全措置の効果
工事中の散水、タイヤ洗浄、施工ヤードに仮囲いの設置	工事中の散水、タイヤ洗浄、仮囲いの設置をすることによる粉じん等の発生又は拡散を低減します。
防音パネルの設置	工事敷地境界に防音パネルを設置し、騒音の影響を低減します。
排出ガス対策型、低騒音型、低振動型の建設機械の採用	二酸化窒素、浮遊粒子状物質、騒音、振動の発生を低減します。
作業方法の改善	アイドリングストップの励行、高負荷運転の抑制等により二酸化窒素、浮遊粒子状物質、騒音、振動の発生を低減します。
工事用車両の高速道路への誘導及び分散通行	工事用車両については、高速道路に直接乗り入れできるようにし、地域の一般道を極力利用しないことにより、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等、騒音、振動の発生を低減します。
地下水流動保全工法の採用	工事実施時から地下水流動保全工法を実施し、地下水位の保全に努めます。
建設副産物の再資源化・再利用化	建設発生土は再利用に努め、建設汚泥についてもできる限り再利用し、それ以外は適正に処理・処分します。コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊は再資源化を図ります。

アイドリングストップの励行



排出ガス対策型・低騒音型・低振動型の建設機械の採用



タイヤ洗浄



(3) 工事中の安全性

- ① 工事における事故の発生や交通の安全性の低下への懸念
- ② 工事における地域の風紀悪化への懸念、悪化抑制への期待
- ③ 工事における通学路や生活道路の安全性の確保についての懸念
- ④ 工事の安全対策に関する懸念

○これまでに頂いた意見

- 工事を分割して工事の影響期間を短縮する。
- 工事車両の搬入出路の規制。
- 工事中の工事区間の横断のための道路をつくる。
- 日頃から工事や大型車が通過するときの、騒音や振動などで悩まされている。外環の工事を行う際に、生活と安全が確保されるのかが、非常に心配である。工事の段階から、車の規制をするなど、規則を定めてほしい。
- 工事中は安全を第一に考えた工事を進め、周辺地域の生活道路にトラックが進入したりしないようにする。
- 地上から開削工事をする際に、中央自動車道の基礎の強度に影響が出て、高架が傾くのではないかと心配しているので、影響が出ないようにしてほしい。

(国)

- 工事の実施にあたっては、作業員等の指導・教育の徹底を図るとともに、工事区域を明確化し、通学路等を含めた道路の交通安全対策としてガードフェンス、バリケード等で囲うとともに、工事用車両出入口付近には誘導員を配置するなど、交通安全や円滑な交通の確保に努めます。
- 中央ジャンクションに係る工事用車両については、中央高速に直接乗り入れできるようにし、吉祥寺通りなどの地域の一般道を極力利用しない計画とします。また、一般道を利用する場合には、工事用車両の台数、運行ルート、運行時間等について地域のみなさまへ説明するとともに、意見を聴きながら周辺地域への影響が小さくなるよう努めます。
- 工事区域内における風紀悪化が生じないよう、工事現場周辺のイメージアップを図るなどの対策を実施するとともに、区市とも連携し安全・安心の対策に取り組んでまいります。

外環 事業プロセスにおける検討時期

